



## 【今月の教えてキーワード：リフレ（リフレーション）】

「通貨の再膨張」などと訳される。物価が下がり続けるデフレにより停滞した経済が、回復途上にあるものの物価が連続して上昇するインフレには至っていない状況を指す。「リフレ政策」とはデフレ脱却を図るために物価上昇率の目標を定め、インフレを避けながら目標を達成するまで市中に出回る通貨量を増やし経済を刺激する政策のこと。1930年代に世界恐慌からの回復を目指し高橋是清蔵相が同様の政策を実施している。

## 【「結果」より「努力」をほめる】

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も」で知られた米沢藩主の名君、上杉鷹山（ようざん）は、人を動かす方法を「してみせて、言ってみせて、させてみよ」と説きました。これをもとにしたと言われるのが山本五十六元帥の名言、「やってみせ、言ってみせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」です。

教育者としても知られ、人望に厚く部下にやる気を出させることが非常に上手かった山本五十六は、模範を示し、指導して、実際にやらせる上杉鷹山流のやり方に「ほめる」を加え、理論ばかりでは人は動かないことを暗にほめかけたのでしょう。人の心が動くのは感情が刺激されたとき。まずは心が動かなければ人は動きません。

「ほめて伸ばす」は人育ての定説です。最近では人のほめ方を学ぶ「ほめる研修」を導入する企業もあるようです。しかし、人をほめることは意外と難しく、「どんな言葉をかけたらいいのかわからない」という声をよく聞きますが、ほめ方で最も大事なものは「ほめ言葉」より「何をほめるか」でしょう。かつて、ニューヨークの小学校で興味深い実験が行われました。小学4年生に簡単なパズル課題を与え、課題終了後に生徒をほめました。

そのとき、「頭がいいんだね」などと結果をほめられた生徒は、続く実験で自尊心を守るためにチャレンジを避け、最終的に成績がダウンしてしまいました。

片や「よく頑張ったね」などと努力をほめられた生徒は、続く実験で実力以上の課題にチャレンジして成績を伸ばしていきました。

つまり、「結果」をほめると失敗を恐れるようになり、「努力」をほめると困難に直面してもくじけなくなる。あくまでも可能性の話ですが、ほめるポイントによって及ぼす影響が変わってくる点は見逃せません。

ビル・ゲイツ氏は、部下が大失敗しても全力を尽くしたならば怒らなかったそうです。結果より努力を認めてほめる。ほめて心が動いたら、社員や部下たちは自らの意思で次のステップへと歩み始めるのでしょう。



## 今を生きる 先人の言葉

# 一念の差

アメリカの発明家であるエジソンの言葉。多くの人は途中で諦めてしまうが、そのとき「さあ、これからだ」と踏ん張る「一念の差」が人生の大きな分かれ目となる。

サラリーマン妻  
川柳

洗った洗濯機  
かたもりの行に

「こののぼり」  
歌詞の中には  
妻がない…  
（川柳）